／【K:】Server／2430（7月7日）／10面（特集ウィズガス見開き）／10面 2010.07.06 10.38.04 Page 2

シンポジウム開催

エコな暮らしの未来予想図

多彩な活動を展開
小林部長が10年度計画を説明

ウィズガスCLUB（住宅生産団体連合会、キッチン・バス工業会、日本ガス石油機器工業会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会）は6月10日、東京都千代田区のホテルグランドパレスで第5回ウィズガスCLUBシンポジウムを開催した。「ウィズガスライフ　エコな暮らしの未来予想図」のテーマの下、低炭素社会実現に向け基調講演やトークショーなどが行われた。

09年度の活動報告と10年度の活動計画を説明

日本ガス協会の小林信久業務部長はウィズガスCLUB事務局を代表し、これまでの活動報告と10年度の活動計画を説明した。

◇

ウィズガスCLUBはコラボ（日本ガス体エネルギー普及促進協議会）と住宅生産団体連合会、キッチン・バス工業会、日本ガス石油機器工業会の4団体が、「豊かで潤いのある生活」を目指して、2006年6月から活動を開始しています。

①豊かで潤いのある住まい・暮らし方を提案する「政策提言」②食育活動等を通じた「社会貢献」③広く生活者に向けた「情報発信」④省エネ推進、CO_2の削減に向けた「環境貢献」の4つの活動を軸に4団体が力を合わせ活動しています。

昨年度の活動と今年度の取り組みを紹介します。

政策提言ではウィズガス住宅の普及促進に取り組んでいます。環境・ヘルシー、快適・さわやか、ロングライフ・フレキシブル、団らん・幸せ、安全・安心という5つのコンセプトで健康増進、環境トップランナー住宅の実現を目指します。ウィズガス住宅に関しては、昨年のシンポジウムでソーラーエネルギー利用推進フォーラムを中心とした太陽熱利用の推進を発表しましたが、環境省で太陽熱利用システム普及加速化の補助金が設立されるなど、活動を着実に進めております。

第3回ウィズガスフォトコンテストは昨年のシンポジウムでグランプリを決定しましたが、本日は1954件の応募を集めた第4回ウィズガス住宅あったかフォトコンテストのグランプリを皆さまの投票で決定します。

小林部長

社会貢献では第3回ウィズガス全国親子クッキングコンテストを開催し、今年1月に決勝大会を開きました。第4回は6月19日の「食育の日」から、来年1月の決勝大会を目指す参加者を募集します。今回は1万人以上の親子の方が参加いただけると予想しており、盛大で意義のあるコンテストにしたいと思います。

食育については、1月の第3回ウィズガス全国親子クッキングコンテストの決勝大会と同日に、陰山先生、服部先生等をお招きして食育セミナーを開催しました。また、金沢と札幌では小泉先生を招き「真の食育とは何か」をテーマに食育セミナーを開催しました。また、メディアとの連携についても「Let's Syoku—Iku」や「炎のキッチンLIFE」をBSで放映しました。

情報発信では昨年6月に第4回ウィズガスCLUBシンポジウムを田辺先生の基調講演、ダニエル・カールさんの講演等で開催しました。

また、ブルー&グリーンプロジェクトの暖房セミナーを東京、名古屋、大阪、福岡で開催しました。

環境貢献としては、高効率給湯器200万台販売とベトナムでの植樹200万本を目指すブルー&グリーンプロジェクトを協賛していますが、2013年には、エコジョーズのデファクトスタンダード化を目指すべく、「エコジョーズ化宣言2013」を業界として宣言し、実現を目指し取り組んでいきます。

エコジョーズ標準化へ
2013年までに実現

2009年9月、鳩山前首相は国連・気候変動サミットで、日本はCO_2排出量を90年比25%削減することを世界に明言しました。この目標達成には家庭部門のCO_2削減がカギになっています。家庭のCO_2排出量は残念ながら90年比で34.2%増えています。家庭でのエネルギー消費の3割は給湯であり、給湯分野の消費をどう減らすかが重要となっています。

そこで「余った熱をおうちでリサイクルできる給湯器」エコジョーズに期待がかかります。給湯熱効率95%、CO_2排出量13%減という非常に有効なテクノロジーです。もちろんお客さまにとってもガス代を削減できることから、エコロジーでありエコノミーなメリットをもたらします。

エコジョーズ化宣言2013のロゴ

給湯器の年間の出荷台数ではまだ8割が従来型給湯器であり、エコジョーズ化できていません。まだまだエコジョーズが売れる高い市場ポテンシャルがあるということです。このため我々ガス業界としては2020年に2000万台の普及を目標にし、エコジョーズを2013年3月までにガス給湯器のデファクトスタンダードにすることを宣言します。

「エコジョーズ化宣言2013」を掲げ関係団体が一致団結してデファクト化を推進します。

都市ガス・LPガス業界に加え、ガス機器メーカー業界、流通業界、住宅業界そしてなによりお客さまの認知を上げながら、皆でチームとして認識を新たにしながら普及推進を目指してまいります。

「エコジョーズ化宣言2013」の意義は3点あります。①業界としての決意と目指すべきゴールの明快な宣言、②次世代ガス給湯器＝エコジョーズのイメージ確立、③社会のため、そしてお客さまのための運動として発信。これを軸に展開します。

エコジョーズの品質についても「2013年クオリティ」としてエネルギーの見える化へエネルックリモコンを標準化します。日々のエネルギー消費量を「見える化」することでエネルギー使用量を2割削減することができると言われています。お客さまが楽しみながら低炭素社会に努力していただくことを狙っています。

また、太陽光発電、太陽熱利用との組み合わせでさらにエコジョーズの可能性が広がると考えています。

この「エコジョーズ化宣言2013」を各企業のホームページ、カタログ、名刺などあらゆる機会で業界内外に発信し、運動を盛り上げ、エコジョーズの普及運動を加速していきます。本日このシンポジウムに参加された皆さまも日本、世界の低炭素化社会実現に向け、ぜひともご協力いただき、2013年のデファクト化を何とか達成したいと思います。重ね重ねご協力をお願いします。

低炭素社会実現に貢献
日本ガス体エネルギー普及促進協議会会長　村木　茂

本日は第5回ウィズガスシンポジウムにご来場いただきましてまことにありがとうございます。ウィズガスクラブ主催4団体を代表して一言ご挨拶申し上げます。

今政局が大きく揺れており、地球温暖化対策基本法の成立も微妙になってきている状況ですが、低炭素化への流れは間違いなく加速されると考えます。現在策定が進んでいる日本のエネルギー基本計画では、化石燃料の中で最もCO_2発生量が少ないガス体エネルギーを高効率に利用することが重要であると打ち出されています。こうした政策をしっかり受け止めて活動を進めていきたいと思っております。

私どもはエネルギー供給の多様化を確保する中で、お客さまが様々なエネルギーの選択肢を持ち、最もいい形でエネルギーを効率的に使っていただきエコな生活、エコな街づくりをしていただくことが重要だと思っています。

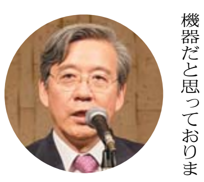
その中でガス体エネルギーが選択されるよう、関係団体力を合わせ、ガス体エネルギーの高効率利用、低炭素化への貢献をしっかり進めていきたいと考えております。

今後ともウィズガスクラブの活動へのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

ガスの快適エコを提案
日本ガス石油機器工業会副会長　内藤弘康

日本ガス石油機器工業会副会長の内藤です。今日は長時間にわたりシンポジウムにご出席賜りありがとうございます。

昨年、この席でガス温水床暖房の素晴らしさを述べさせていただきました。今回フォトコンテストでほかほかリビング部門賞を受賞されました設楽さんの作品は、暖炉のかもし出す暖かな雰囲気がよく現れていますが、床暖房も使われているということで、二重に暖かさが伝わってまいります。床暖房は物理的な暖かさだけでなく幸せな暖かさを実感させてくれる機器だと思っております。



最近、他エネルギーのみの家にお住まいの方に会う機会がありお話しさせていただいたのですが、昼間電気カーペットは使わないそうです。浴室暖房もあるのですが使っていない。使うのは夜間の乾燥時だそうです。理由を聞きましたら、深夜電力は安いけれど昼間の電気は高いからだということでした。これは本当に幸せな暮らしなのかと思います。

我慢＝エコではなく、ガスと電気のいいとこ取りをしながら、ガスを使った快適エコをこれからもご提案していきたいと思っております。本日はまことにありがとうございました。

トークセッション「エコな暮らしの未来予想図」

トークセッションでは基調講演に登壇した秋元氏をはじめ、エコに高い関心を持つ知識人が出演。「エコな暮らしの未来予想図」のテーマの下、未来に向けた豊かな暮らしについての考察が行われた。セッション内ではインターネット回線を使った「スカイプ」による外部との交流も行われ、様々な意見が交換された。

【出演者】
秋元孝之氏
　芝浦工業大学工学部建築工学科教授
赤池　学氏
　ユニバーサルデザイン総合研究所所長
泉　麻人氏　コラムニスト
【司会】
玉利かおる　キャスター、DJ、
　コラムニスト、講師、
　ワイン・エキスパート

玉利　今日のテーマは「エコな暮らしの未来予想図」ですが、未来を語る前に、人々の暮らしぶりがどのように変化してきたのか伺いたいのですが。

泉　僕は昭和31（1956）年生まれで、物心がつく頃までほのかながら江戸時代の名残のような時代を体験しました。我が家は東京の落合というところにあり、建物自体は昭和の初めに建ったものでしたが縁側があって茶の間は4畳半でと、漫画のサザエさんの家のようでした。

台所の床下には乾物や卵を収納するスペースがあって、床板を上げて中のものを取り出したりしていました。この中がスーッとひんやりしていてちょっとかび臭いような香りが漂っていたんですが、子どものころはそこに入り込みたくてしょうがなかったですね。探検気分でしょうか。

電気冷蔵庫が普及する前には氷を使った冷蔵庫がありました。町には「○○氷室（ひむろ）」という氷屋さんがあって、夏場は氷、冬には炭団や練炭などを売っていました。夏の暑い最中、氷室の前を通ると涼しかった。

子どもの遊びも金のかからないものでした。路地裏の遊びもまだ残っていて、ベーゴマやメンコで遊んでいました。缶けり遊びもよくしましたね。どぶを探せばたいてい空き缶があったので、それを拾って井戸で洗って使ったり。ある意味、省エネ的な遊びでしたね。

自律化社会へ

スカイプでエネファームユーザーの話を聞く

玉利　ちょっと前まで遊びも暮らしも省エネでエコでしたね。

泉　ただ、その生活を今できるかというと難しい。缶けりの缶を拾ったどぶは雨が降るとあふれて不愉快な思いもしたわけだし。夏に縁側で涼むのは叙情的ではあるけど、エアコンに慣れてしまうと日常的にそれができるかというとそうではないのではないでしょうか。

泉氏

秋元　私は東京の神田生まれの神田育ちですが、全く同じような子ども時代を過ごしていました。床下収納庫や氷室のお話には全く同感です。氷室が快適だったのは放射熱を活用していたわけで、現代では放射熱を床暖房という形で取り入れられているんですね。

赤池　秋元先生が指摘されたように、新しい放射熱利用の冷暖房技術も開発されてきているのですが、エコな技術を快適に使いこなしていくデザインも大事ではないでしょうか。

その考えの下、昨年トステム住宅研究所さんと一緒に庭を住宅の躯体にシステム化した庭付き住宅商品をつくりました。2つの菜園と2つの坪庭、ベランダがあり、坪庭の一方には常滑焼の露天風呂を付けました。この風呂は100万円するのですが、これが売れています。アンケートをとると、この風呂が決め手になって購入したという人が結構いるんです。

この住宅にはエネファームも導入できます。エネファームは電気をつくる給湯器みたいなものですから、効率的に暮らせるんですね。菜園は子育て世代には「命を育てる」という学びの場になるだろうし、エネファームはほんの少しだけCO_2が出るんですが、菜園を作ることによって相殺できるというメリットもあります。住宅用の温室にエネファームを系統化させると、家の温室で1年中トロピカルフルーツを栽培して食べることも可能になります。

「快適な暮らし」は今も昔も変わっていないのですが、最先端のエコな技術をうまく取り入れていくという発想が求められていると思いますね。

玉利　エコな暮らし、快適さとエコというところですが、エコ＝我慢と捉える方も多いのではないでしょうか。節約だけではないと思うのですが。

泉　うちの奥さんは風呂の湯を洗濯に使ったり、古くなったTシャツを雑巾にしたりしています。今では浴槽の水は洗濯用みたいになっています。

赤池　家族が家をマネジメントしていく、ということって面倒ではなく楽しいことだと思います。今までエネルギーをつくることなど考えられなかったのですが、エネファームの発売で自家発電でき、エネルギーを自分でマネジメントできるようになった。エネルギーの民主化＝エネルギー・デモクラシーができ↙

第4回ウィズガス住宅
あったかフォトコンテスト

受賞者と関係団体代表者。中央がグランプリを受賞した小島さん

ガスがもたらす快適で暖かな暮らし、エコな暮らしを表現した写真コンテスト「ウィズガス住宅　あったかフォトコンテスト」。4回目を迎えた今年、全国から1954点の力作が寄せられた。

厳正な審査の結果、ほかほかリビング部門賞（住団連賞）に宮城県宮城郡の設楽泰久さんの「炎とやすらぎのひと時」、ほくほくキッチン部門賞（キッチン・バス工業会賞）に宮城県岩沼市の小島夏子さんの「次は何、入れる?」、ぬくぬくバスタイム部門賞（JGKA賞）に大阪府富田林市の福山貴美子さんの「お風呂大好き」、考えよう住まいのエコ部門賞（コラボ賞）に長崎県佐世保市の中西啓さんの「パパのこっそりエコ」が最終ノミネート作品として選ばれ、シンポジウム開催当日の参加者投票で小島さんの作品がグランプリを獲得した。

表彰式の席上、小島さんは「今までキッチンをごちゃごちゃにされるのでいい顔ができなかったのですが、これからは喜んで子どもたちにお料理させてあげたいと思います」と笑顔で語った。

第5回ウィズガスCLUB

ウィズガスCLUB　ウィズガスライフ

トークセッションは様々な話題で盛り上がった

る。環境意識が相当向上する気がします。

秋元　「楽しむ」というのは本当に大事なことですね。自然エネルギーを取り入れるようにしたら、窓を開けたほうがいいかなとか、自然を楽しみながら暮らしていけるのではないかと考えます。それは決してやせ我慢ではないんですね。

玉利　エネファームのお話が出ましたが、太陽光発電とエネファームのダブル発電のユーザーさんと今、スカイプでつながっていますので、お話を伺いたいと思います。奈良県の福中真澄さん？

福中　こんにちは。

玉利　最先端のお住まいですが、導入のきっかけは？

福中　新築するとき、人と違った家にしたい、何か自慢できる家にしたいと思いました。ちょうどハウスメーカーさんからダブル発電を勧めていただき、環境にも家庭にも優しいと伺って導入を決めました。

玉利　住み心地はいかがですか？

福中　毎日の発電量を自分でチェックできるんですが、それが楽しいです。また、余った電気を売ることができるので、とても得した気分になります。主人も今月はどれくらい儲かった？とか聞いてきまして、夫婦で予想以上の収入に大満足しています。

玉利　最後に住宅メーカーやエネルギー事業者に望むことがあればどうぞ。

福中　ダブル発電を導入してとても満足しています。もっともっと普及してダブル発電の家が普通になるくらいがんばってほしいです。

赤池氏

玉利　どうもありがとうございました。再生可能エネルギーの恩恵をまさに受けておられるご家庭でしたが、課題は何でしょうか。

エネルギーマネジメント＝

泉　瀬戸内などを電車で移動していると屋根に太陽光パネルのある家を多く見かけます。ああいう晴天の多い地域には向いていると思うのですが、冬の北陸や東北などあまり晴天に恵まれない地域ではどうでしょう。

秋元　やはり雪が多い地域は太陽光発電にしても太陽熱利用にしても、効率的に利用できる時間が少なくなるということはあります。自然エネルギーが不足する場合は化石燃料をうまく使ってあげることが大事になってくると思います。

玉利　安定供給という点では化石燃料は重要ですよね。

赤池　太陽光発電自体が天候に左右される不安定なものなので、今後のエコ住宅には住宅用のバッテリーに自家発電した電気や安い深夜電力を蓄電して使う方向になっていくと思います。

実は、先ほど紹介した住宅にはもう1つのエコシステムが入っていて、太陽光発電の電気を電気自動車のバッテリーにためるようになっています。こうした技術の組み合わせで不安定な自然エネルギーを効率よく利用する工夫もあります。

秋元氏

泉　今後は日射率の高い地方の不動産が値上がりしたりするかもしれませんね。

赤池　そうなる可能性もありますね。青森県は風力発電、新潟の温泉地では地熱発電といったように地産地消のエネルギーでデザインされた街が増えてくるのではないでしょうか。

ガスも重要な役目を果たします。ガスがつくる熱は高温なら工業用に、ちょっと下がれば産業用、もっと低くなれば家庭用や冷房用に―といったように効率的に利用できるんですね。街づくりもそういうふうに効率的にデザインできないかと考えています。

泉　地域で熱が利用できればいいですね。

秋元　エリア内での熱の融通は最近進んできています。そういう考え方は増えてきていますね。

玉利　実際に、街ぐるみのエネルギーの使い方など、先進的な取り組みをしているのが北九州市です。スカイプでお呼びします。北九州市環境モデル都市担当理事の松岡俊和さん？

松岡　こんにちは。

玉利　北九州市の取り組みを紹介していただけますか。

松岡　わたしたち北九州市はエコで街をデザインしていこうと考えています。エネルギーに関して言うと、今まではエネルギーは与える人と使う人という関係でしたが、これからはエネルギーを使いこなす社会をつくっていこうと考えています。先般、次世代エネルギーシステムのスマートグリッドの拠点に選ばれましたが、コンセプトの1つはみんなでエネルギーを共有しようということ。新エネルギーや水素エネルギーを街全体で融通しあって使いこなしていこうとしています。

市民が温暖化防止に参加できる仕組みとして、「北九州市民節電所」を街のエネルギーマネジメントとして取り入れました。インターネット上で自分の世帯のエネルギー使用量をリアルタイムで表示し、省エネ量の「見える化」を図ったもので、省エネ量はポイント化し、エコポイントとして使う仕組みとなっています。

今、グリーンイノベーションの推進が行われていますが、我々はイノベーションのプレーヤーは市民だと捉えています。社会システムそのものを楽しく、エコに取り組み変革していく。アジアの人たちと一緒に環境共同体として広めようと取り組んでいます。

玉利氏

玉利　08年に環境モデル都市に選定された北九州市ならではの取り組みに期待しています。ありがとうございました。

さて、最後に皆さんに一言ずつ、「エコな暮らしの未来予想図」ということで伺いたいのですが。

秋元　自然エネルギーや再生能エネルギーを化石エネルギーとうまく組み合わせてデザインしていってほしいですね。我々専門家からの的確なアドバイスも重要だと思いますが、性能の高い住宅をうまく使いこなすのも重要です。

泉　去年の夏、琵琶湖の西側、高島市の針江に行ったのですが、ここでは琵琶湖のきれいな水を家の中に取り入れて循環させて使っていました。どこでもできることではないのですが、その街の特長を生かしたエコを街ぐるみでやっていくことが大事なのではないでしょうか。マンションでもベランダに緑を並べておけば見た目の清涼感もあるし、日射もさえぎられるという物理的な効果もあります。住民サイドでちょっとした努力をしていくことが一番大事ではないかと思います。

赤池　うちの研究所には国内外の様々な未来予想図のデータが集まってきますが、それを見ると4つのステップで未来が開いていく気がします。エネルギーでいうと、これまでは原子力発電所のように大規模集中的につくっていく「合理化社会」でしたが、負の遺産が増えてしまった。そこで現在は何と何を組み合わせるとベストミックスになるのかという「最適化社会」に入っています。しかし、これはどうも中央からのおしきせの印象が否めない。次のステップは「自律化社会」だと思います。北九州市のように、その街の特性に合ったエコな暮らしを自律的に計画してデザインしていく。さらにそれが自然をうまく取り入れてエコな暮らしを楽しむ「自然化社会」につながっていくのではないかと思っています。

ですからここにお集まりの住宅関連業界の皆さんには、自律化時代の家づくり、エコハウスについて考えていただきたい。エネルギー事業者のみなさんは電気と熱をオーダーメードしていく時代になるのではないでしょうか。これからは「エネルギーの自律化」が大きなキーワードになると思います。

エコ落語も

今回のシンポジウムでは上方落語界の「クマのプーさん」こと笑福亭三喬氏による「エコ落語」が行われた。

当初「机を前にしたお客さまにお話しするのは初めて」と笑いを取ると、江戸時代の庶民の暮らしを舞台に様々な「エコ」にかかわる小咄を紹介。演台にしつらえた高座からテンポよく語られるエコ落語に、会場は大いに沸いた。

基調講演

再生可能エネルギーと住まいの展望

芝浦工業大学教授　秋元孝之氏

今日は再生可能エネルギーと住まいの展望について話します。まず住まいづくりにおける省エネの必要性ですが、日本の部門別エネルギー起源CO_2排出量の推移を見ると、民生(業務、家庭用)部門が運輸や産業部門に比べて大きく増えている状況であり、我々は努力しなければなりません。

住宅の施策では09年から10年にかけて改正省エネルギー法が施行されました。この中で住宅・建築物に関わるエネルギー使用の合理化については、従来2000㎡以上の建築物が対象だったものが、300㎡以上も対象となりました。さらに建て売り住宅を年間150戸以上販売する建築主は1次エネルギー消費量を基に省エネ性能の基準を設け、その基準をクリアすることが求められることになりました。この対象事業者は全国に約100社あります。

基準は従来の断熱・気密性能に加え設備性能も対象にしています。目標は13年度までにクリアすることで、住宅のトップランナー基準とも言われていますが、地域ごとに基準が定められ、販売する住宅の平均の省エネ性能が基準を上回ることが求められています。

建物の環境性能評価が国内外で重要なキーワードになっています。建物の環境性能を正しく評価する「ものさし」として、米国ではLEED、英国ではBREEAMが有名で、日本ではCASBEEが使われています。CASBEEは建物の環境性能効果（BEE）を表示し、環境品質(室内環境の快適・健康・安心や長期使用など)と環境負荷(エネルギー消費、ごみの減量、地球・地域等への環境配慮)のバランスを評価し、2つのバランスが取れているほど点数が高くなります。

環境に配慮した住まいづくりのポイントですが、国土交通省の研究開発プロジェクトの成果が自立循環型住宅への設計ガイドラインとしてまとめられています。エネルギー消費を50％以上削減することを目標に研究開発が進められ、この成果をまとめたものです。温暖地、寒冷地など地域ごとに作成され、これを全国各地で講習会を行い、地場工務店などに周知しています。内容は自然風や昼光の利用、太陽エネルギーの活用、給湯設備などのアイデアを説明しています。

省エネリフォームも重要なテーマです。快適性を追求しつつ環境負荷を減らす。ここでは健康的な住まいがキーワードです。省エネだけではなかなか投資しにくいが、自分の健康のためになることなら、投資しやすいのではないでしょうか。

戸建て住宅の省エネリフォームでは太陽エネルギーの利用、断熱の強化、冷房時の日射の遮蔽などがあります。設備機器は高効率化が進んでおり、新しく良い製品を使っていくことが大事です。

最後に再生可能エネルギーの利用を説明します。ソーラーエネルギー利用機器の導入実績を見ると、太陽光発電の導入が進んでいるのに対し、太陽熱利用機器は遅れています。太陽熱利用機器は安価でエネルギー変換効率が高く、重要なシステムです。これをうまく利用していかないと低炭素社会につながりません。それでソーラーエネルギー利用推進フォーラムが設立され、様々な活動を展開しています。

世界の太陽熱利用では中国が顕著です。新規の設置面積ではドイツ、スペインが伸びています。ドイツは年平均18％成長しており、09年に再生可能エネルギーの導入が義務化されました。スペインは建築バブル崩壊で一時的に減りましたが09年に太陽熱導入の義務化を行い、年平均63％成長しています。

EUは再生可能エネルギーの普及率目標として20年に20％を掲げています。さらに建物の断熱、機器の効率化で30年までにエネルギー消費を40％削減する目標です。このうち20％は太陽熱利用で賄います。50年には全体の50％を太陽熱利用にするため、技術開発を進めています。

グランプリ　ほくほくキッチン部門賞（キッチン・バス工業会賞）

次は何、入れる？

宮城県岩沼市　小島夏子さん

「仲のよい兄妹が料理するシーンを見ただけで家族の団らんが感じられる。食育の面からも素晴らしい」（赤池審査委員長）

ほかほかリビング部門賞（住団連賞）

炎とやすらぎのひと時

宮城県宮城郡　設楽泰久さん

「暖炉の前のお子さんの表情が素敵で、床暖房とあいまって作者の家庭の暖かな雰囲気が伝わってくる」（赤池審査委員長）

ぬくぬくバスタイム部門賞（JGKA賞）

お風呂大好き

大阪府富田林市　福山貴美子さん

「もやっとした湯気の中で泡まみれのお子さんの表情がよい。親子の暖かなつながりが感じられる」（赤池審査委員長）

考えよう住まいのエコ部門賞（コラボ賞）

パパのこっそりエコ

長崎県佐世保市　中西　啓さん

「コンロの手入れで省エネルギーに貢献するお父さんの姿、エネ効率を考えると重要なこと。素晴らしい」（赤池審査委員長）